

平成 27 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■ 自主研究 1
主査名	西田 泰 ・ 公益財団法人交通事故総合分析センター 特別研究員兼研究第一課長
研究テーマ	交通事故対策の効果評価と今後の交通事故情勢に関する研究
研究の目的: 本研究では、交通事故対策の効果評価や交通事故情勢の推移に関する文献調査を行い、交通事故対策の効果評価の考え方を整理し、不適切な評価(過大あるいは過小)となる要因を解明することで適切な対策効果の評価方法について論じるとともに、死亡事故の増加・減少要因を含めた影響要因について検討し、今後の交通事故情勢を予測する。	
研究の経過(4月～9月): 研究活動開始に向け、以下の準備作業を行った。 (1) 文献の整理 過去に収集している当該研究に関する資料を整理するとともに、新たな文献収集。 (2) 過去の交通事故等のデータの収集 一次交通戦争といわれた昭和 45 年以前から現在までの交通事故情勢及び関連する指標データの収集(既存データの整理を含む)。 (3) 交通事故情勢の予測、対策の効果評価のための分析手法の検討 ① 交通事故指標の関連性: 交通事故による死者数と負傷者数、あるいは歩行中死者数と自動車乗車中死者数の推移は異なった傾向を示すことが多い。そこで、指標間の相関分析等を行うことで、他の指標の推移予測や、対策の効果予測の可能性を探ることを検討課題に。 ② 都道府県間の交通事故情勢の関連性: 過去に総理府交通安全対策室が実施した交通事故の長期予測の中には、都道府県の道路交通情勢の違いに着目したものもある。そこで、地域間の道路交通情勢や交通事故対策の実施状況の推移に関する分析も検討課題に。 以上の準備作業を行っている段階で、主査の私的理理由から今年度当該研究に十分な工数を割くことができなくなったため、今後事務局に対して本年度の研究を翌年度に繰り越すことを申請したい。	
下期へ向けて(課題等): 前述のように主査の私的理理由で今年度は研究を中断することとしが、来年度も研究活動継続の申請を行うことを踏まえ、資料収集や非公式な勉強会での研究手法等の検討を行う。	
研究メンバー(敬称略): 西田泰(主査・交通事故総合分析センター) 景山久(交通評論家) 鹿島茂(中央大学) 樋口忠夫(日本交通科学学会) 村田隆裕(交通評論家) 伊澤昭一(交通評論家)	